

専務-21-005  
2021年3月23日

都道府県本部

本部長 各位  
事務局長 各位

公益社団法人 日本空手協会  
専務理事 泉屋 誠三

### 新型コロナウイルス感染予防ガイドライン最新版について

時下益々ご健勝のことと存じます。

令和3年度は、全国大会、小中大会、熟練者大会開催が決定し、皆様には大会に向けての稽古に取り組んでおられると推察いたします。しかし、以下緊急事態宣言が解除されたものの、普段の生活様式が平時に戻った訳ではなく変わらぬ予防対策が不可欠です。各道場に於いても油断する事なく、先に発表したガイドラインに沿って感染防止に努め生徒の安全を第一に考えた指導体制を徹底して下さい。

現在、感染予防の一環として、より精度の高いマウスシールドの正式採用を決定し、全ての協会員にお使いいただけるよう準備しております。開発当初、4月初旬の販売を予定しておりましたが、コロナによって生産ラインが追いつかず納期が大幅に遅れていますことを皆様に深くお詫び申し上げます。4月中旬より申し込みを開始し、5月中旬には皆様のお手元に届く予定でございますので、今しばらくお待ちください。

その間に既に県大会や選考会を予定している都道府県があり、組手競技に関するお問い合わせを多数いただいております組手を採用した都道府県の主催者の方は、以下の点にくれぐれも注意して下さい。

#### 【試合の注意点】

1. 必ず不織布マスクを使用して下さい。ただし、鼻と口をしっかりと覆い、隙間を作らないように装着して下さい。呼吸が楽に出来る様に、中にシリコン等のガードを入れることは可。
  - ・いわゆる鼻マスクの選手には、直ちに『止め』をかけ正しい装着を促して下さい。
  - ・マスクが外れ床に落ちた場合、予備のマスクを使用して下さい。
2. 大型扇風機の設置して下さい。各コートに大型扇風機を設置し、同方向に送風し換気して下さい。
3. 各コートに消毒液を用意し、状況に応じて小まめにプロテクター、マット等の消毒をして下さい。
4. 待機中の選手の三密を回避させる様、徹底して指導して下さい。

5. 試合 2 週間前からの関係者全員の健康管理表の提出を義務化して下さい。
6. 必要に応じ承諾書の提出して下さい。  
(基礎疾患を持っている家族や、高齢者と同居の選手)
7. 形順位決定戦のみマスクを外してもかまいません。

フェイスシールドを開発するにあたり、数種類のマスク及びフェイスガードの飛沫試験を行った結果、隙間の空いたマスクはその隙間から飛沫が拡散し、大きな穴が空いていたり傾斜のついたフェイスガードはそこから大量に飛沫が拡散することが可視化による実証データで解りました。

また薄手のウレタンマスク、スポーツマスクはマスクを通して前方にかなり飛沫が飛ぶことも解りました。可視化実験のデータは、エアロゾルを含んだ飛沫の計測値にも同様に表れています。計測方法は色々あるようですが、今回の実験は気合の強さにより近い、くしゃみの圧力で唾液と同じ粘度の液体をマスクをしたマネキンから噴出させ、レーザー光線による可視化実験とパーティクルカウンターによる前方の飛沫粒子数の計測を行なったものです。

その結果、今回採用することとなったマウスシールド以外では、正しく装着した不織布マスクが最も飛沫防止に優れていました。よって、新型マウスシールド完成前の地区大会及び選考会の組手には、不織布マスクを使用する事とします。

#### 【組手稽古の注意点】

先に述べた通り緊急事態宣言が解除されたとは言え、その後感染者の減少が見られない地域や新たに感染者が急増した地域においては、くれぐれも慎重な対応をお願いします。

ここでは、相手と向かい合ってお互いの手足が接触する間合いで行う対人稽古は全て組手と定義し、組手における感染拡大のリスクを最小限に抑える為に、以下の 4 つの方法を提唱します。

#### 1. 少人数編成のグループ分け

2 週間を単位に 4~5 名のグループに分け、グループ内の相手とのみ組手をします。万が一、そのグループ内で感染者が出た場合、濃厚接触者及びクラスターをそこで抑えられるからです。

#### 2. 同一相手との組手稽古の時間制限

2 分~3 分を 1 単位として、都度相手を交代し濃厚接触の可能性を減らします。

#### 3. 手足の消毒

小まめな手洗いはもちろんのこと、出来れば稽古後、除菌アルコールで足裏を消毒して下さい。素足で稽古をするので、床に落ちた飛沫を付着させ家に持ち帰る事を防止する為です。

#### 4. 十分な換気

窓や扉を小まめに開放し、換気をして下さい。出来れば大型扇風機の設置が望ましい。

これらの項目は、新しいマウスシールド(それまでは不織布マスク)を装着の上、毎日の健康管理の入念なチェックと稽古前の検温が前提です。大会がある以上、すぐにでも通常通りの試合に則した稽古をしたいのは山々ですが、感染予防に最大の注意を払うことは、私たちが安全に稽古出来る事にも増して、コロナ収束に向けやらなければならない最低限の義務です。どうか流行る気持ちを抑え、ゆっくりと慎重に且つ段階を踏んで組手稽古に臨んで下さい。

他方、公益社団法人日本空手協会は競技団体ではなく、精神の鍛錬を含んだ自己錬磨を目的とした武道空手を推進する団体です。ご存知の様に空手道には様々な取り組み方、楽しみ方があり、そのどれも同等の価値があります。このコロナ禍における様々な制約は、空手道が持っている多様な価値を再認識する好機と考えます。また、我々空手道を修練する者は困難に打ち勝ち、人々に勇気を与える存在でなくてはなりません。どうか自分を律し、空手協会員の誇りを持って、この困難に皆で立ち向かいましょう！